

発行者

さんほみち

兵庫県立総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション中央病院
〒651-2181 神戸市西区曙町1070
TEL (078) 927-2727
FAX (078) 925-9203
ホームページ <http://www.hwc.or.jp/hospital/>



脳損傷と精神症状

神経内科

脳卒中や外傷によって脳が損傷を受けた場合、その部位に応じて様々な運動障害、言語障害、記憶障害が出現します。急性期治療や、その後のリハビリによりこれらの症状が改善されても、何か病前と比べるとひとが変わったようで復職できない、あるいは歩けるようになったのに目が離せないといったケースは多いのではないのでしょうか。これには脳損傷による精神症状が大きく関わっています。よく経験するのは自発性の低下で、なにかにつけて誰かが促さないと行動をおこさなくなり、物事に対する興味を失うため怠けやうつとまちがえられることがあります。また、抑制が効かなくなって怒りっぽくなり些細なことでトラブルをおこすことや、物事に集中できずミスを繰り返す場合もあります。

周囲の状況を判断し、自分がどう行動すべきか計画し反省するといったことが苦手となるようです。

これらの精神機能が脳のどこに局在するかは未だ明確でなく有効な治療法もありませんが、ご家族の方がこれらの症状を理解してあげることは重要と思われれます。

風邪とインフルエンザ

研究検査部

普通の風邪とインフルエンザを混同してはいませんか。普通の風邪の症状は、のどの痛み、鼻汁、くしゃみや咳などが中心で、全身症状はあまり見られません。

一方、インフルエンザの場合は、39以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、下痢、嘔吐などの全身症状が強く、あわせて普通の風邪の症状も見られます。



更に気管支炎、肺炎、小児では、中耳炎、熱性痙攣などを併発し重症化することがあるのもインフルエンザの特徴です。

また、インフルエンザは流行が始まると短期間に乳幼児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込むという点でも普通の風邪とは異なります。ところでインフルエンザウイルスには、どんな種類があるかご存知ですか？種類は、抗原性の違いから、A型、B型、C型に分類され現在、ヒトの世界で流行しているのは、Aソ連型ウイルス、A香港型ウイルス、B型ウイルスの3種類です。

検査部におきましてもインフルエンザウイルスA型及びB型検出用試薬を用意し診断の一助としています。

尿の色がいつもと違って心配...

薬剤部

薬を飲んでいて、尿や便の色がいつもと違って驚いたということは、ありませんか。一般には、水分を多く取ると、尿の量は増し、色は、無色透明に近づきます。逆に水分の摂取が少なかったり、汗を多くかくと、尿量は減り、色は濃くなります。

薬についても、服用によって、便や尿の色の変化が、見られる場合があります。

《例》

ビタミンB2	尿が黄色くなる
鉄剤 (貧血の薬)	便が黒くなる
リファンピシン (結核の薬)	汗・尿・便・涙が赤くなる
アローゼン・大黃・プルセニド (便秘の薬)	尿が黄褐色又は赤色になる
メネシット・マドパー (パーキンソン病治療薬)	尿・汗・唾液が暗褐色になる
セフゾン (抗生物質)	尿が赤くなる
アドナ (止血剤)	尿が橙色になる
キネダック (糖尿病による末梢の痺れ・痛みの薬)	尿が黄褐色又は赤くなる



上の例のほかにもありますので、気になることがあれば、医師や薬剤師にご相談ください。